

北本市中山道街並み景観整備計画（概要版）

中山道地域は、江戸時代初期に宿場として成立し、その後、宿場が移され、宿場間の休憩所でもある「間の宿（あいのしゆく）」として発達してきました。

このように中山道地域では、古くから北本市の中心的な市街地として発展してきましたが、近年の急速な市街地の拡大により、新旧の家並みが混在する街並みとなり、それに伴う道路整備も追いつかない状況で、また、中心的な市街地としてのにぎわいも薄れてきています。

このような中、中山道の拡幅整備の事業化を契機に、市と中山道まちづくり協議会が協働し、街並みづくりに向けた活動を進めて来ました。

この「中山道街並み景観整備計画」は、中山道沿線の街並み景観を形成する上での基本計画として、道路空間や沿線の建物等の景観形成の基本やそのガイドラインを明確にするとともに、街並み景観の実現に向けた指針を示したものであります。

中山道の持つ歴史と文化を活かした、新しい北本の顔となるような魅力ある街並みづくりを目標に「新しくも懐かしい『近代的和風』のまち」を景観イメージとして、進めてまいります。

北 本 市
中山道まちづくり協議会

■中山道周辺地区の景観基本方針

北本駅周辺の中山道地区として、次のような範囲を一体的な景観形成地区として計画しています。特に、道路整備が進められる中山道沿道ゾーン（北及び南地区）を景観誘導を優先すべき重点地区として設定します。

■歴史的緑地景観ゾーン

* 中山道沿道に立地する寺社の緑地と歴史的雰囲気を保全継承します。

■駅前広場周辺ゾーン

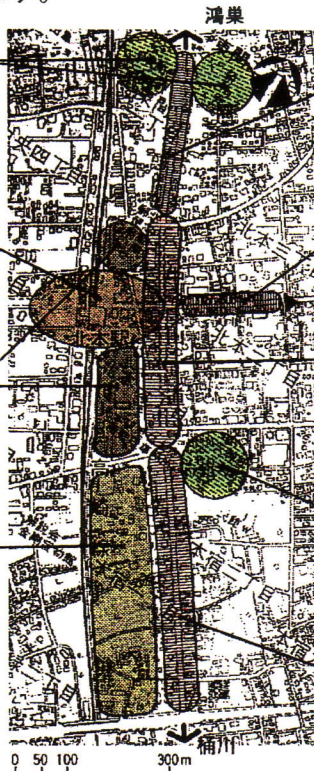
* 駅前広場に面するゾーンとして風格のある景観形成を目指します。

■駅周辺商業ゾーン

* 駅前広場に連続するゾーンとして賑わいある商業地景観形成を目指します。

■中高層住宅ゾーン

* 周辺と調和した緑豊かでゆとりある新たな住宅地景観形成を目指します。



■中山道沿道ゾーン

* 中山道の歴史性にふさわしい、落ち着きとゆとりある景観づくりを目指します。

■中央通りゾーン

* 駅に連続する商業ゾーンとして賑わいと連続性のある景観形成を目指します。

■中山道北ゾーン

* 和風デザインを取り入れたモダン街道のイメージの商業地景観形成を目指します。

■歴史的緑地景観ゾーン

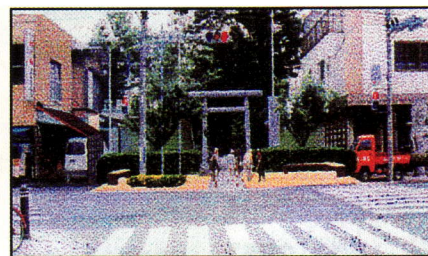
* 中山道沿道に立地する寺社の緑地と歴史的雰囲気を保全継承します。

■中山道南ゾーン

* 伝統的の和風を基調とし、住宅と緑の調和した景観形成を目指します。



▲緑豊かな街並みの創出



▲寺社の緑の保全と管理

■景観形成の目標

中山道の宿場として成立し、後に間の宿として人に休息の場を提供したこの地域の特性を活かしたまちづくりを進めていきます。かつてのにぎわいの中心地であり、本地域の景観の要ともなっている天神社付近の雰囲気と調和した景観の保全育成を目指します。また、既に建替えの終わったエリアと今後建替えの始まるエリアとが一体となった景観づくりを行い、北本市の顔としてふさわしく、また、ひとの暮らしに魅力あるまちづくりを目指します。

■景観形成の方針

- ①モダンなイメージから歴史的なイメージへと移行する道路景観整備
- ②ハイセンスな「和」的デザインによる中山道に相応しい質の高い街並み景観の創出
- ③彩度を抑えた、落ち着きある美しい街並みの創出
- ④きめ細かな維持管理の継承
- ⑤ドラマチックで緑豊かな環境の創出

■ 景観形成の基準

■ デザイン方針

項目	北	南
将来像(テーマ)	商店が連なる北本市の顔らしい街並み	商店が点在する住宅と緑の調和した街並み
デザイン方針	モダン街道 素材は伝統的の和風を積極的に利用し、形態で現代のアレンジを加える。日本の伝統色を用いる。	ハイセンスな「和」的デザイン 歴史街道 伝統的の和風を基調とする。

① 道路景観形成の基準

項目	北	南
道路構成	幅員は車道9m、歩道片側3.5mの16m	
歩道の舗装	グレー系の自然石	
街路樹・緑地帯	アキニレ、トウカエデ、ヤマボウシ等の落葉樹	
	<p><街路樹の条件> 幹が直立し、乾燥・大気汚染に比較的強いもの <委員会での意見> 小ぶりで落葉が少ないもの</p> <p>①花を楽しむなら ヤマボウシ(6~7月) コブシ(3~4月) ②紅葉を楽しむなら トウカエデ(紅葉) アキニレ(黄葉) ③和風のイメージ クロマツ</p>	
ファニチャー類	照明灯(20mピッチ)、車止め	照明灯(40mピッチ)、車止めベンチ
広場等	ゲート、花木 オープンカフェ風立場茶屋	玄関口、シンボルツリー シンボル広場

②沿道の景観形成の基準

項目		北	南							
建築物・ 工作物等	屋根	—	落ち着いた色彩の瓦屋根を用いる。							
	仕上・ 色彩	外壁	和風の素材を積極的に利用し、周囲と合わせた落ち着いた色合いとする。 	木材や漆喰塗り風の吹き付けなど和風の仕上げとする。 						
		開口 (窓等)	こげ茶や黒系の仕上げとする。 	木材の素地に近い仕上げとする。 						
	意匠・ 形態	屋根	周囲との調和を図る。	和風の傾斜屋根とする。						
		外壁	1階は1m、中高層の建築物については、圧迫感のないよう壁面を後退する。	和風の意匠とする。						
		開口	効果的に和風の意匠を用いる。	和風の意匠とする。						
	日除・ 風除	日本の伝統色を用い、周囲との調和を図る。		日本の伝統色を用いる。 						
		N-884 浅縹(あさはなだ)	N-974 赤支子(あかくちなし)	N-965 紫苑(しおん)						
		N-801 蒸栗色(むしくりいろ)	N-985 路考茶(ろこうちゃ)	N-997 青鈍(あおにび)						
	塀・垣根等	外壁に準じた仕上げとする。	板塀や生け垣を用いる。出入り口は余裕をもたせて和的風格のある演出を図る。							
車庫・ 駐車場	できるだけ店舗前には設けないことが望ましいが、設ける際には歩道の延長としての利用を考えた意匠の工夫をする。	駐車場が街並みを途切れさせることの無いよう、塀・門扉などで目隠しを行う。								
設備機器類	すべての設備機器、配管は道路から見えない位置に設置するか外壁や塀の仕様に準じた目隠しを行う。商店のサービススペース等もできるだけ道路側から見えないよう同様の工夫をする。									
広告物・ 看板等	必要最小限の掲出とし、コンパクトでシンプルなデザインとする。袖看板については統一看板を使用する。 		必要最小限の掲出とし、緑や住宅と調和したシンプルなデザインとする。 							
										
土地の形質	周囲の状況と調和の取れたものとし、土地の著しい分割はしない。									
	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 25%;">宅地</td> <td style="width: 25%;"></td> <td style="width: 25%; border: 2px dashed black;">×</td> <td style="width: 25%;"></td> </tr> <tr> <td colspan="4">道路</td> </tr> </table>			宅地		×		道路		
宅地		×								
道路										
木竹の伐採・ 植栽	建築前にスペースがある際は積極的に花木や花を植栽する。	屋敷林や庭木をできるだけ保全するとともに、生け垣や花による緑化を推進する。								

■景観づくりガイド

景観づくりにあたっては、前掲の基準に加え以下のような参考事例を参照して、景観づくりに配慮しましょう

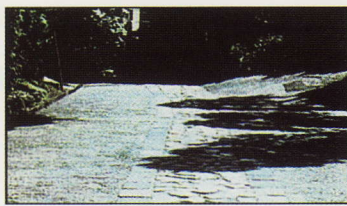
■舗装は自然石を利用し、落ち着いた格調高い歩道イメージとします。



* 御影石の整形貼り



* 御影石の乱貼りによる舗装



* 組み合わせによる新たなイメージ



* 中山道と同幅員（16m）/相模原市

■街路灯は和洋どちらにも調和するシンプルなデザインを基調とします。



* クラシカルな街路照明



* 現代風の街並みにも調和する和風照明



* ガス灯風の街路照明



* 案内図等に利用された地上変圧器

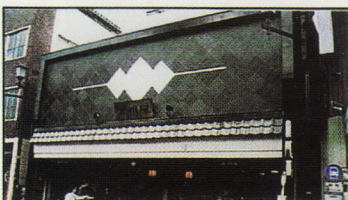


* 街並みに調和した案内図



* 透水性で凹凸のないツリーサークル

■周囲と調和した、落ち着いた色調の外壁とします。



* 低彩度の外壁



* 落ち着いた色調の街並み



* 瓦屋根の使用



* 和風の建具の使用

■暖簾や日除け、及び駐車場の塀などについても街並みとの調和に配慮したデザインとします。



* 伝統色を用いた日除け



* 伝統色を用いた暖簾

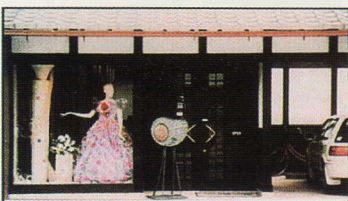


* 和風の駐車場の塀



* 風格ある白壁の塀

■コンパクトでシンプルな広告物とするとともに、緑豊かな街並みの創出を図ります。



* 店先のコンパクトな立て看板



* 街並みに調和したコンパクトな袖看板



* ガラスを用いたしやれた庇看板



* 緑豊かなポケットパーク

□中山道街並み景観整備計画（概要版）/平成12年3月/発行：北本市（担当：都市計画課）

